

行田駅開業60周年に寄せて



行田市長 行田 邦子

JR行田駅が開業60周年を迎えられましたことを、心より祝い申し上げます。昭和41年の開業以来、市民の通勤・通学やお出かけの拠点としてはもとより、南の玄関口として多くの方々を迎え、本市の発展を支えてこられました。

J R 行田駅の開業は、地域や企業の皆様によるご尽力の賜物です。先人の皆様の熱意と努力に深く敬意を表しますとともに、今日まで駅と地域を支え続けてこられた関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

今後も、JR行田駅が地域の交流を育む拠点として次の時代へ受け継がれ、皆様に愛され続けることを願っております。

地域とともに歩み、未来へつなぐ



東日本旅客鉄道株式会社
熊谷事業本部長
ハツ田 彰

JR行田駅は本年、開業60周年を迎えました。長年にわたり駅をご利用いただき、支えてくださった地域の皆さまに心より感謝申し上げます。

7月4日には60周年記念イベントを開催し、また7月1日から12日

には駅舎や駅前広場のライトアップを岩崎電気様のご協力のもと実施するなど、節目を祝う取り組みを行うことができました。

これからも行田駅は、人と人、まちとまちをつなぐ拠点として、安全・安心を第一に、より一層親しまれる駅づくりに努めてまいります。

～記念イベントでJR行田駅の60周年を祝いました～

7月4日、JR行田駅東口駅前広場で、開業60周年記念イベントが開催されました。

こども駅長制服撮影会の他、缶バッジ作り体験、キッチンカーの出店、市内の観光スポットを巡るスタンプラリーなどが行われ、会場は多くの来場者でにぎわいました。

また、岩崎電気株式会社埼玉製作所の協力により、7月1日～12日に駅舎・駅前広場などのライトアップも実施され、夜の駅前に彩りが添えられました。



駅舎・駅前広場
ライトアップ



こども駅長制服撮影会

JR 東日本 行田駅 開業60周年

JR行田駅は、昭和41(1966)年に国鉄の駅として開業し、以来60年にわたり、行田市の交通の要として多くの人々に利用されてきました。行田市の発展とともに歩み、時代の変化を見つめながら、市民の暮らしを支え続けてきたJR行田駅。これからも行田市の南の玄関口として、多くの人に親しまれ、愛される駅であり続けるでしょう。

今月は、JR行田駅のこれまでの歩みを振り返るとともに、記念イベントの様子を紹介します。

昭和41(1966)年4月 建設工事が進む行田駅



当時、駅の建設費用は全額地元負担が原則であり、国鉄行田駅は行田市開発協会が建設費を負担しました。

昭和41(1966)年7月・8月 行田駅開業記念祝賀式の様子と列車



行田駅が開業した昭和41(1966)年7月1日、開業式が行われ高崎線の列車乗務員に花束が贈呈されました。

8月3日には、駅前広場で関係者約600人を招いた開業記念祝賀式が盛大に開催されました。

また、市民号による水上温泉1泊旅行が行われた他、小・中学生らによる国鉄行田駅開設への思いがこめられた文集も刊行されました。

行田駅建設のはじまり

秩父鉄道の開通により、行田と高崎線との連絡は大きく改善されましたが、東京へ直結する鉄道がない不便さは解消されませんでした。



昭和30(1955)年、太井村が合併し、市内に高崎線が走るようになると、昭和31(1956)年、地域の方々と共に国鉄行田駅設置の陳情が初めて行われました。

駅設置の運動は年月とともに活発になり、昭和34(1959)年に国鉄行田駅建設促進委員会が発足し、同年に駅設置の請願書が国鉄に提出されました。

その後も駅設置の運動は続けられ、昭和38(1963)年には行田駅建設期成同盟が結成され、行田駅設置の請願書が提出されました。

その結果、駅設置に尽力された方々の情熱が実を結び、昭和40(1965)年3月15日に国鉄行田駅設置認可が発表されました。そして、同年11月29日に起工式が行われ、行田駅の建設が始まりました。

J R 行 田 駅 の あ ゆ み

現在

60年前



令和8年
7月1日

開業
60周年



平成25年
10月1日

「夢伝説」に変更
発車メロディを



平成18年
2月23日

「もしもし券売機
稼働開始
Kaerukun」

エレベーターの設置

Suicaの導入



平成8年

観光案内所の設置



平成7年
2月9日

自動改札機の導入

市営駐輪場の設置
西口駅前を整備

昭和62年
4月1日

国鉄分割民営化に伴い、東日本旅客鉄道(JR東日本)の駅となる

昭和51年
7月1日

駅前広場の整備

昭和41年
7月1日

国鉄の駅として開業